

2019年7月6日～2019年7月12日

2019年7月17日

先週の回顧

カナダ・ドルは、対円で横ばいになりました。また、カナダ5年国債利回りもおおむね横ばいになりました。

カナダ銀行（中央銀行）の金融政策決定会合が開催され、政策金利は市場予想通り据え置きとなりました。声明文で現行の緩和政策の継続が適切であるとのコメントがあったことを受けて、カナダの金利の低下圧力が強まったものの、米国金利の上昇を背景におおむね横ばいになりました。通貨に関しても下落圧力が強まりましたが、原油価格の上昇などを背景に、おおむね横ばいになりました。

経済指標では、住宅関連の指標が複数発表になっており、市場予想を下回ったものが多かったものの、住宅着工件数は市場予想を上回る強い結果になりました。

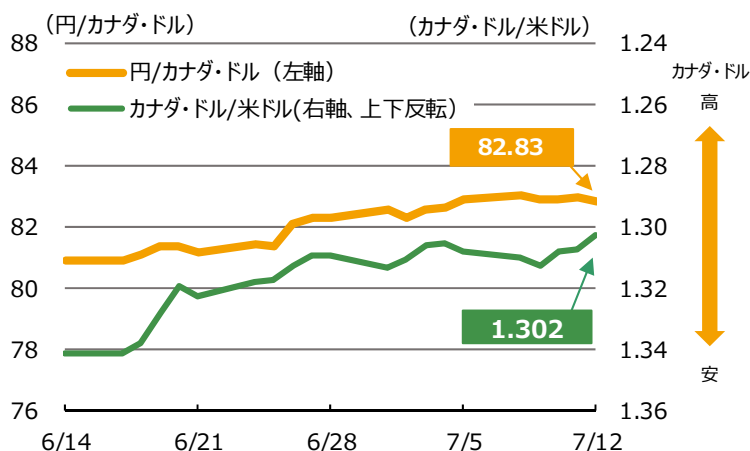
今週の見通し

今週、カナダではCPI（消費者物価指数）、小売売上高の発表が予定されています。足元、個人消費が好調となっており、その基調が続いているかどうか注目が集まります。

また、カナダ銀行の声明文を受けて、年内の政策金利に関しては据え置き予想が優勢となっており、欧米との金融政策の方向性の違いも、引き続きカナダの通貨、金利を下支えすると考えられます。

カナダ・ドル 為替推移

(2019年6月14日～2019年7月12日)

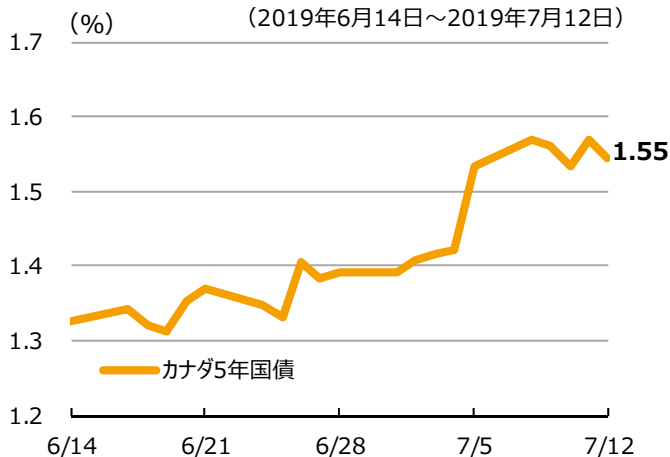


※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

カナダ 金利推移

(2019年6月14日～2019年7月12日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。